

June 2022

株主通信

Vol.106

目次

株主の皆様へ	P.01
2021年度 決算ハイライト	P.02
セグメント別概況	P.03
[特集]	
脱炭素社会の実現に向けた CO ₂ 排出削減の取り組みを加速	P.04
富士フィルムグループトピックス	P.06
投資家インフォメーション	P.08

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

現在、新型コロナウイルス感染症との共生に向かう試みが各国で進められつつありますが、一方で、世界経済の回復を阻害する様々な要因が存在しています。半導体不足や国際物流の混乱に加え、ロシア・ウクライナ情勢に起因してエネルギーや素材価格は大きく高騰しました。中国における新型コロナウイルス感染抑止のための政策は生産活動の停滞やサプライチェーンの混乱を招き、世界的なスタグフレーション(景気後退局面におけるインフレーション)も懸念されています。

当社は、ロシア・ウクライナ情勢やコロナ禍の影響により現在困難な状況に身を置かれている多くの方々が、一日も早く平和で安定した生活を取り戻されることを願い、そのためにどのような貢献ができるかを常に考えて事業活動を行っています。どのような環境下でも立ち止まることなく、責任ある企業として、社会への貢献と成長を両立させる事業活動を加速してまいります。

2021年度の当社業績は、売上高2兆5,258億円(前年比15.2%増)となりました。営業利益は2,297億円(前年比38.8%増)、当社株主帰属当期純利益は2,112億円(前年比16.5%増)といずれも過去最高益を達成し、3カ年の中期経営計画「VISION2023」の初年度として、順調なスタートをきりました。

2021年度の配当金は、12期連続増配となる10円増配の1株当たり110円といたしました。

ヘルスケアでは、昨年3月にグループに加わった富士フィルムヘルスケア(日立製作所の画像診断関連事業を承継)との統合シナジーが早期に実現し、メディカルシステム

代表取締役社長・CEO

後藤 禎一



事業の好調な業績に寄与しています。世界で高いプレゼンスを誇る富士フィルムの医療ITを核とした幅広いラインアップにCT・MRIを新たに加え、グローバルで拡販を進めました。

高機能材料分野では、旺盛な半導体需要を取り込み、半導体製造関連プロセス材料の幅広い製品群で販売を伸ばし、売上が大幅に増加しました。今後も5Gや自動運転などに使用される最先端半導体向けをはじめとして、半導体の微細化・高集積化に対応した製品を提供し、成長を加速させていきます。

当社は、CSR計画「Sustainable Value Plan 2030」のもと、気候変動への対応に取り組んでいます。すべての事業分野で、それぞれの事業特性に基づくCO₂排出削減のアクションプランを策定・実行し、脱炭素社会の実現に貢献していきます。

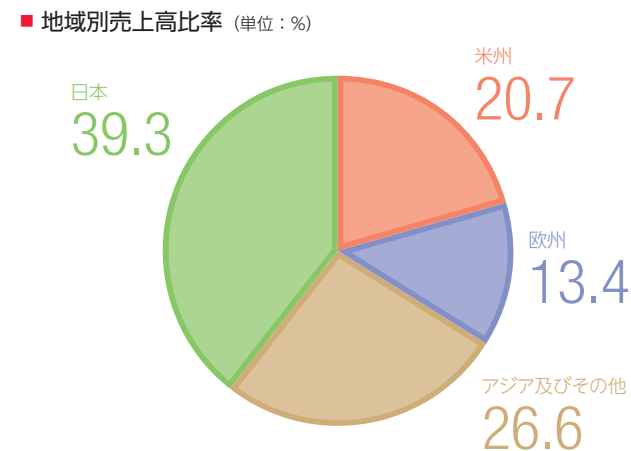
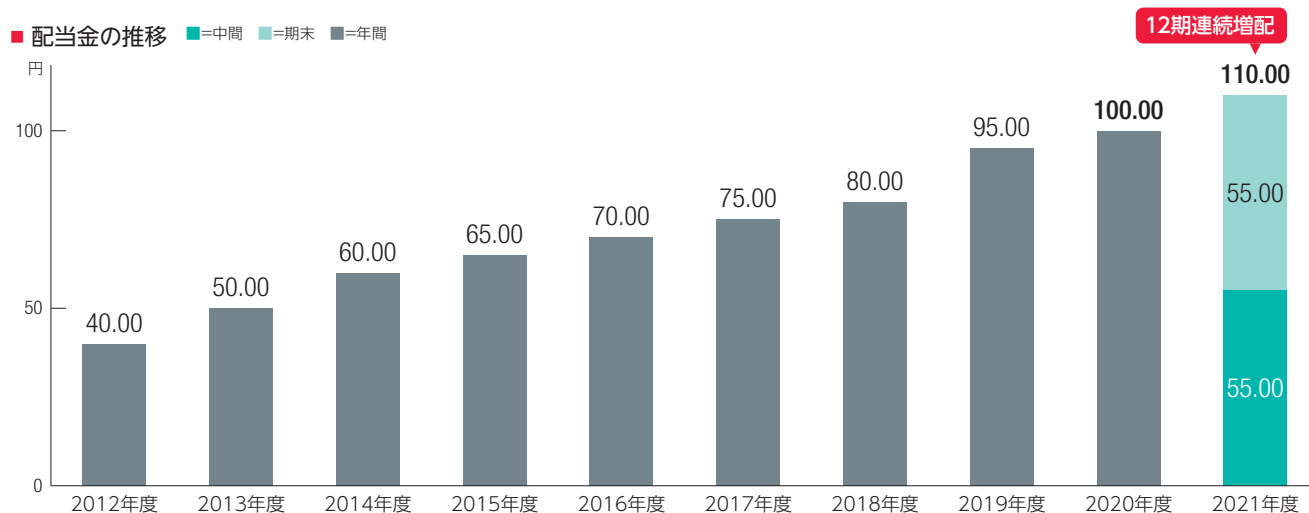
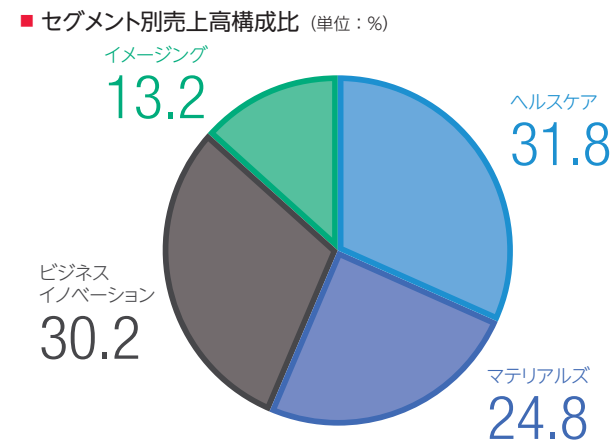
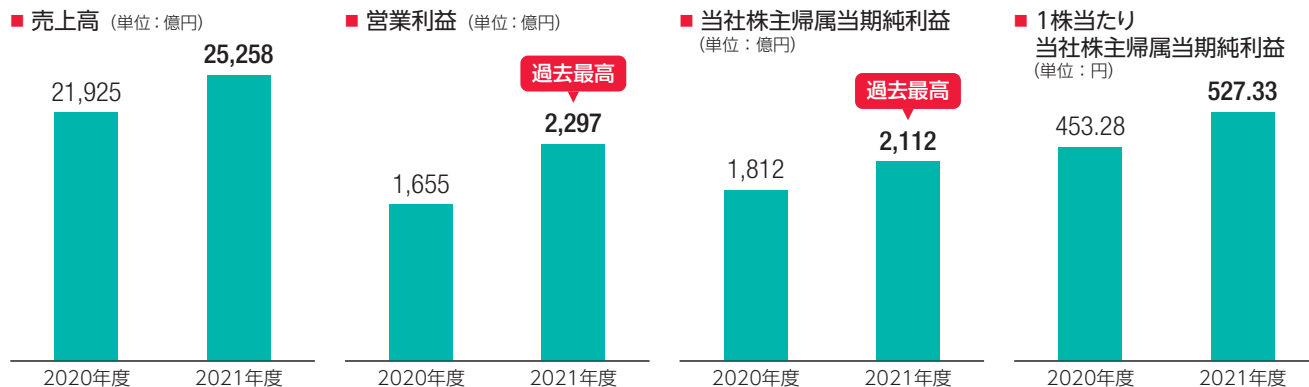
また、全社規模でデジタル・トランスフォーメーション(DX)の推進に取り組んでいます。富士フィルムグループの目指す姿「DXビジョン」を掲げ、私が議長を務めるDX戦略会議によって、その取り組みを加速させています。ビジネス環境の急激な変化に迅速かつ柔軟に対応し、当社の革新的なDXを活用した製品・サービスを提供することで、社会課題の解決に寄与していきます。

株主の皆様には、今後ともなお一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2022年6月

2021年度 決算ハイライト

新型コロナウイルス感染症の流行拡大影響からの着実な回復に加えて、メディカルシステム、バイオCDMO、ライフサイエンス、及び電子材料の各事業を中心に売上を伸ばし、売上高は前年比15.2%増の増収となりました。営業利益は前年比38.8%増、当社株主帰属当期純利益は前年比16.5%増といずれも過去最高益を更新しました。



詳細な財務情報は、当社ウェブサイト「株主・投資家情報」をご覧ください。

アドレスはこちら > <https://ir.fujifilm.com/ja/investors.html>



セグメント別概況

ヘルスケア

メディカルシステム
バイオCDMO
LSソリューション
(ライフサイエンス、医薬品、
コンシューマーヘルスケア)



■ 売上高
8,017億円

前年比

38.4%増

■ 営業利益
1,005億円

前年比

78.4%増

メディカルシステムは、富士フィルムヘルスケアの連結子会社化に加え、新型コロナウイルス感染症関連の検査に有用な製品の需要拡大や医療IT、内視鏡、体外診断（IVD）などの分野で販売が伸長し、売上が大幅に増加。バイオCDMOは、バイオ医薬品のプロセス開発受託及び製造受託が好調に推移、また、米国拠点での新型コロナワクチン候補の原薬製造が寄与。ライフサイエンスは、バイオ医薬品製造用途の培地などの販売が好調。

マテリアルズ

電子材料
ディスプレイ材料
他高機能材料
(産業機材、ファインケミカル、
記録メディア)
グラフィックコミュニケーション
(グラフィックコミュニケーション、
インクジェット)



■ 売上高
6,272億円

前年比

10.8%増

■ 営業利益
684億円

前年比

33.2%増

電子材料は、半導体需要増に伴い、幅広い製品群で販売が好調。ディスプレイ材料は、TVやIT関連向けの高機能フィルム製品の販売が堅調。グラフィックコミュニケーションは、経済活動の再開により、印刷需要が回復に向かう中、刷版材料分野、デジタル印刷分野で販売伸長。また、産業用インクジェットヘッドの販売が欧州、中国の建材印刷市場での需要増により好調。

ビジネスイノベーション

オフィスソリューション
ビジネスソリューション



■ 売上高
7,635億円

前年比

0.2%増

■ 営業利益
579億円

前年比

20.8%減

オフィスソリューションは、海外生産拠点でのロックダウンによる稼働停止や、半導体等の部品供給の逼迫及び物流混乱を背景とした機器の供給・設置遅延などの影響を受けるが、消耗品売上の回復や為替影響などにより前年並みの売上を維持。ビジネスソリューションは、国内で自治体向けビジネスの増加、海外を中心にBPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）が好調で前年を上回る売上。

イメージング

コンシューマーイメージング
プロフェッショナルイメージング



■ 売上高
3,334億円

前年比

16.9%増

■ 営業利益
370億円

前年比

2.4倍

コンシューマーイメージングは、インスタントカメラ“チェキ”の新エントリーモデル [instax mini 40]、最上位機種 [instax mini Evo]、ワイドフォーマット対応のスマートフォン用プリンター [instax Link WIDE] 等の新製品が販売好調。プロフェッショナルイメージングでは、約1億200万画素の高画質を実現したラージフォーマットミラーレスデジタルカメラ [FUJIFILM GFX100S] が世界各地で高い評価を受け、販売好調が継続。

(注) 2021年度の営業利益2,297億円は、上記のセグメント別営業利益及び全社費用・セグメント間取引消去 (-341億円) の合計となります。

脱炭素社会の実現に向けたCO₂排出削減の取り組みを加速

当社は、2030年度をターゲットとしたCSR計画「Sustainable Value Plan 2030」の下、環境に配慮した製品・サービスの開発やエネルギー効率の高い生産設備への切り替えなどにより、CO₂排出削減を着実に進めています。今回、脱炭素社会の実現に向け、新たなCO₂排出削減目標を設定しました。

当社の環境に対する考え方～創業以来のDNA

当社の創業の原点ともいえる写真フィルムの製造には清浄な水や空気が不可欠です。

写真フィルムは撮影前に試すことができないことから、「信頼を買っていただく商品」と捉えて、「ステークホルダーのみならずからの信頼」を企業経営の最重要項目と位置づけてきました。

そのため、創業以来、当社は環境配慮・環境保全、地域とのコミュニケーションが「企業活動の根幹を成す」ものと考え、企業活動を行ってきました。

当社が環境課題に取り組む意義

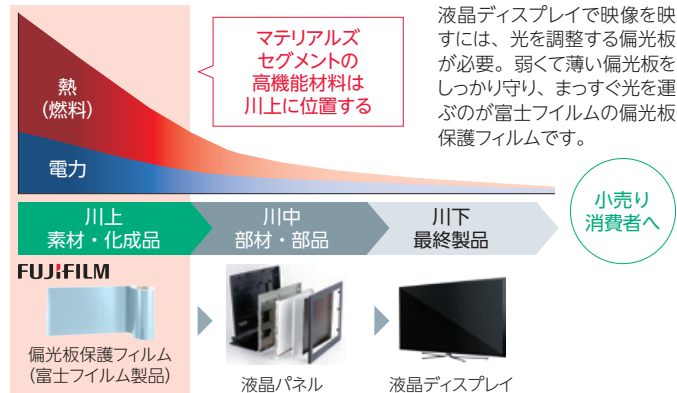
1つの製品が完成するまでの工程で燃料・電力の使用量が最も大きいのは、サプライチェーンの川上に位置する素材・化成産業界です。

当社の製造段階におけるCO₂排出量の構成比においても、偏光板保護フィルムをはじめとした高機能材料を主事業とするマテリアルズセグメントが50%を超えています。

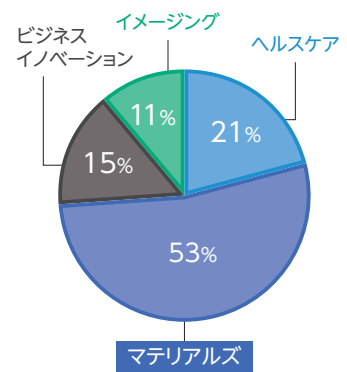
中期経営計画「VISION2023」では、ヘルスケアとともに高機能材料の成長加速を掲げています。

当社は、事業の成長とCO₂排出削減への取り組みを両立させ、素材・化成産業界分野における企業としての責任を果たしていきます。

■ サプライチェーンにおけるエネルギー必要量



■ 製造段階におけるCO₂排出量構成比(2020年度実績)

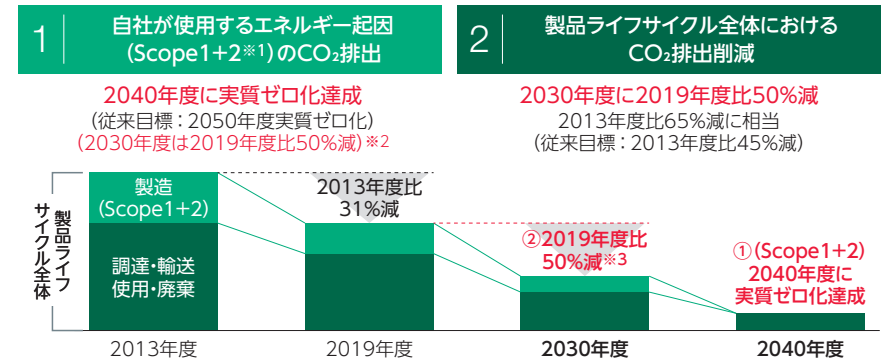


新たなCO₂排出削減目標

当社は、脱炭素社会の実現に向け、パリ協定で定められている「1.5℃目標」に整合した、新たなCO₂排出削減目標を設定しました。

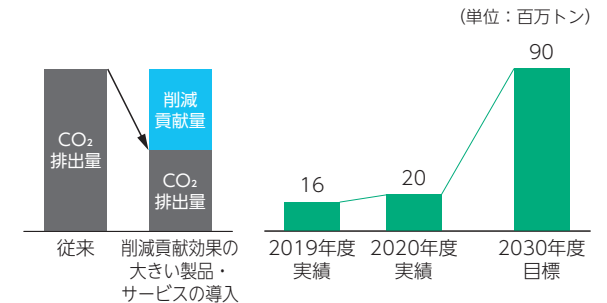
- ①2040年度までに自社が使用するエネルギー起因^{*1}のCO₂排出を実質的にゼロとする
- ②原材料調達から製造、輸送、使用、廃棄に至るまでの自社製品のライフサイクル全体において、2030年度までにCO₂排出量を50%削減(2019年度比)

■ CO₂排出削減イメージ



このほか、2030年度までにCO₂排出削減効果の高い自社製品・サービスを提供することで社会でのCO₂排出削減累積量9,000万トン^{*4}に貢献します。

これは、自社による累積削減量の2倍を上回る貢献にあたります。



^{*1} 製品の製造段階における自社からの直接排出(Scope1)と他社から供給された電気・蒸気の使用に伴う間接排出(Scope2)
^{*2} 2013年度比65%減に相当 ^{*3} 2013年度比65%減に相当 ^{*4} 2017年度以降の累積削減量

新目標の達成と脱炭素社会の実現に向けた施策

本目標達成に向けて、富士フィルムグループ環境戦略「Green Value Climate Strategy」を策定。「環境負荷の少ない生産活動（Green Value Manufacturing）」と「優れた環境性能を持つ製品・サービス（Green Value Products）の創出・普及」の二軸で構成された戦略の下、目標達成に取り組んでいきます。

1 環境負荷の少ない生産活動（Green Value Manufacturing）の推進

- **カーボンニュートラル生産の実現**
高機能フィルムの主力生産拠点である神奈川事業場足柄サイト及び富士宮事業場を「カーボンニュートラルモデル工場」と位置付け、これらの事業場で水素や合成メタンなどのCO₂排出を伴わない燃料の導入と実装を推進します。
- **製造受託を通じた社会でのCO₂排出削減**
カーボンニュートラル生産を実現した工場で、社外からの製造受託ニーズに応じていきます。
低温輸送が必要なバイオ医薬品は需要地に近い場所での生産を推進し、冷蔵保管や空輸に伴うCO₂排出量の削減に貢献します。
- **CO₂排出削減効果の大きい新たな生産プロセスの開発**

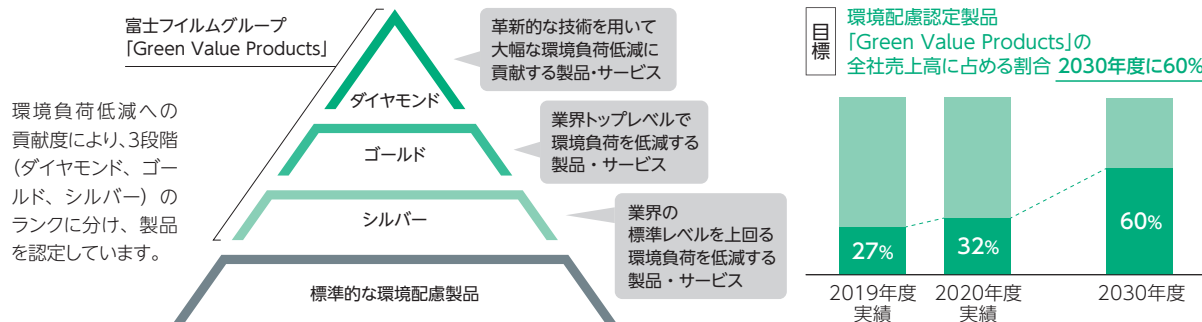
他社との協業を通じた取り組みの推進

富士フィルム、東京ガス、南足柄市の三者で「脱炭素社会に向けた包括連携協定」を2022年3月29日に締結しました。環境負荷の少ない新たな生産活動を追求する富士フィルムと、最先端の脱炭素化技術を保有する東京ガス、高機能フィルムの主力生産拠点である神奈川事業場足柄サイトが立地する南足柄市と協働し、ものづくりにおけるカーボンニュートラルモデルの確立を目指します。



2 優れた環境性能を持つ製品・サービス（Green Value Products）の創出・普及

- **「Green Value Products」の拡大**
当社グループは、すべての製品・サービスにおいて、気候変動への対応、資源循環、有害物質の削減・代替化、廃棄物削減の観点で環境配慮した設計をしています。さらに、環境配慮で一定の基準を満たした製品・サービスを富士フィルムグループ「Green Value Products」として認定・開示する制度運用を2018年度から開始し、2020年度までに166製品を認定しました。「Green Value Products」が全社の売上に占める割合を、2020年度実績の32%から2030年度に60%を目指します。

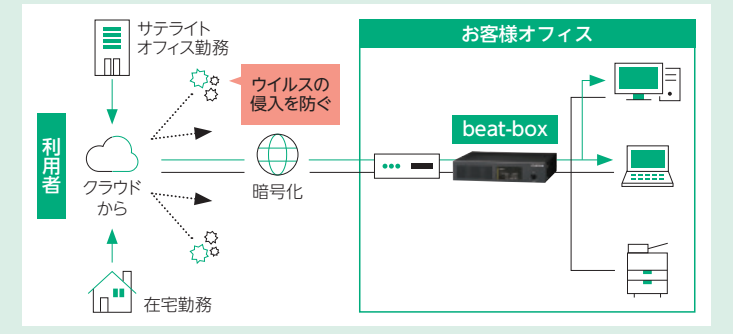


「Green Value Products」認定製品の一例

● テレワークソリューション「beat」

「beat サービス」は、セキュアなネットワーク環境をワンストップ・低コストで実現するサービスです。強固なセキュリティ対策でオフィスネットワーク内の端末のウイルス感染を防止します。

お客様のリモートワークを支援するネットワークを容易に構築できるため、人の移動やオフィスの設備利用によるCO₂排出を削減する効果があります。



環境への取り組みの詳細は、サステナビリティレポートをご覧ください。

サステナビリティレポート <https://holdings.fujifilm.com/ja/sustainability/report>



富士フィルムグループ トピックス

富士フィルムビジネスイノベーション 今後の事業展開

2021年4月に富士フィルムビジネスイノベーション株式会社が「常にビジネスに革新をもたらす存在であり続ける」との決意のもと、社名を変更し、スタートをきってから1年が経ちました。

新たな社名でスタートした1年目は、従来の日本国内及びアジア・パシフィック地域市場から、活動の舞台をグローバルに広げるとともに、国内においては全国の販売会社を統合させた新会社での営業活動を開始しました。また、富士フィルムブランドを掲げてデザインを一新し、デジタルカラー複合機及びプリンター「Apeos」シリーズを新たに展開しました。ソリューションビジネスの領域では、情報システムの構築と運用を長年にわたって手掛けてきたHOYA株式会社のIT子会社を買収し、富士フィルムデジタルソリューションズ株式会社としてMicrosoft Dynamics 365を主力とした基幹システムの販売及び導入支援サービスに参入するなど、今後の事業成長のための基盤を整えました。

コロナ禍でリモートワークが浸透し、働き方が多様化する中で、誰もが場所の制約を受けることなく柔軟に、より創造性豊かに、個々の能力を存分に発揮しながら働くためには、デジタルトランスフォーメーション（DX）を強力に推し進めていくことが不可欠です。

私たちは、デジタル技術やビジネスプロセス変革に関する知見をもとにし、知識と情報の効果的な利活用に向けたDXを支援しています。複合機を導入いただいたお客様との契約期間を通じた長いお付き合いの中で、オフィス環境や現在直面している課題に加え、潜在的なニーズも把握し、解決策を提案してきました。お客様の業務プロセスを知り尽くしている私たちの強みを生かし、DXを通じて業務プロセス全体を最適化し、課題解決や事業成長に貢献します。事業の中核にソリューションを据え、お客様のビジネスイノベーションパートナーとして、ビジネスの変革と発展を支援していきます。

富士フィルムビジネスイノベーション
代表取締役社長・CEO
浜 直樹

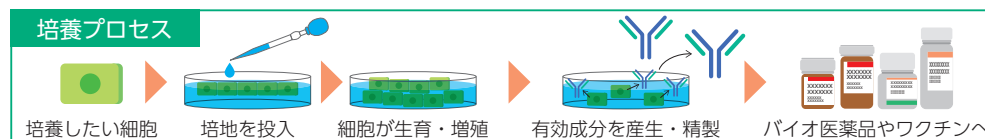


バイオ医薬品の需要増に対応 細胞培養に不可欠な 培地の新工場及びカスタマイズサービス拠点を新設

培地とは、細胞の生育・増殖のための栄養分を含む液状または粉末状の物質で、基礎培地（アミノ酸、糖類、脂質、ビタミン、塩類）と、添加物（血清または血清代替品、増殖因子、その他）から構成され、多種類の原料を調合して製造します。バイオ医薬品などの研究開発・製造における細胞培養には必要不可欠なものです。



液体の培地



現在、抗体医薬品やワクチンといったバイオ医薬品の需要増や、細胞を用いた治療法の拡大に伴い、培地の世界市場は年率10%以上で伸長しています。

バイオ医薬品の需要増などに対応するため、2021年12月、オランダの生産拠点で培地新工場の稼働を開始しました。また、2022年4月には培地の中国ビジネスを拡大するため、培地のカスタマイズサービス拠点「Innovation & Collaboration Center」を新設しました。

<オランダ>FUJIFILM Manufacturing Europe B.V. の培地新工場

欧州には北米に次いでバイオ医薬品製造企業が集まっています。オランダに工場を構えたことで、欧州の顧客へ迅速に培地を届けることが可能になりました。培地の生産能力増強とともに、日米欧3拠点のグローバル生産体制を確立し、顧客の創薬・医薬品製造をより強力にサポートしていきます。



風力発電を備えた新工場

オランダの生産拠点では、再生可能エネルギーの1つである風力発電由来の電力により、使用電力の全てを賅っています。また、蒸気生成のために一部用いる天然ガスの使用削減に向けて、風力発電由来の電力で加熱し蒸気を生成する電気ボイラーを導入予定で、カーボンニュートラルの実現に向け、施策を進めています。

<中国>培地のカスタマイズサービス拠点「Innovation & Collaboration Center」

バイオ医薬品などの研究開発・製造を行う製薬企業が集まっている中国・蘇州高新区に、培地のカスタマイズサービス拠点「Innovation & Collaboration Center」を新設しました。細胞の自動培養装置や、培養した細胞の品質・量などを分析する自動解析機器を設置し、細胞培養評価を高精度に行うことができます。さらに培地の処方最適化サービスを提供していきます。急成長が見込まれる中国市場で、培地のカスタマイズサービスを展開するとともに、中国における営業・技術サポート体制を一層強化することで、顧客満足度のさらなる向上を図ります。

“チェキ”instax シリーズの最上位機種 ハイブリッドインスタントカメラ “チェキ” [instax mini Evo] 大好評

「instax mini Evo」は、アナログカメラとデジタル機能を融合したハイブリッドインスタントカメラです。「ソフトフォーカス」や「光漏れ」などの10種類のレンズエフェクトと「モノクロ」や「レトロ」などの10種類のフィルムエフェクトを自在に組み合わせて撮影できます。ダイヤルを回してエフェクトを設定、レバーを引いてプリントなどのアナログ操作とクラシカルなデザインが人気です。

スマートフォン内画像のプリンターとしても活用できます。自分の想いをプリントにして伝える新しいコミュニケーションツールとして楽しんでいます。



Voice 「instax mini Evo」誕生にあたって

「instaxの魅力をもっと多くの方に感じてもらいたい!」という思いで商品を企画しました。撮影後に画像を確認してプリントできる「デジタルの良さ」に、手触り感ある操作を楽しめる「アナログの良さ」を掛け合わせ、ユーザーに今までにない新しい体験を提供することを追求しました。一つ一つのデザインや仕様を決める時はユーザー視点徹底し、カメラの持ち歩きから、撮影・プリントまで全てを楽しめるカメラをつくることができました。商品名の由来は、「Evolution: 進化」と「Evoke: (感情などを) 呼び起こす」。富士フイルム 進化し続けるinstaxで、様々な感情を表現していただける嬉しいです。

富士フイルム
イメージングソリューション事業部
商品企画担当 武山



「いいときも、わるいときも、ここちいい肌へ。」 乾燥肌や敏感肌をケアしてうるおう肌へ誘うスキンケアブランド [cresc. by ASTALIFT] を新たに展開

これまで「アスタリフト」で培ってきた先進性や技術力を生かして、乾燥肌や敏感肌をケアするスキンケアブランド「cresc. by ASTALIFT (以下、クレスク)」を新たに展開しました。乾燥による肌荒れを引き起こす一因が、季節の変わり目やマスク生活によって生じる「湿度変化」であることに着目しました。独自のナノ分散技術で微粒子化した成分をゼリー状化粧液「ゼリーコンディショナー」に配合しています。化粧液で整えた肌を維持し、うるおいを守るクリーム状乳液「モイストチュア リッチミルク」のシンプルな2ステップケアです。



ブランド名「cresc.」は“だんだん強く”を意味する音楽用語「クレッシェンド」に由来します。「寄り添う」「楽しむ」「共に変化する」新スキンケア体験で、心をだんだん軽やかにすることを目指します。

Voice 「クレスク」のデザインに込めた思い

時には面倒な毎日のスキンケアの時間が、少しでも心地よく、楽しくなるように、ちょっとした喜びや幸せ感を積み重ねていただけるようなデザインを考えました。クレッシェンドマーク型のジッパーを開けるとメッセージが現れる個装箱、キラキラと光る泡が映える容器、届くたびにデザイン柄が変わるレフィルパッケージ。遊び心をちりばめたデザインで、ワクワクをお届けします。

富士フイルム デザインセンター

富士フイルムホールディングス 「デジタルトランスフォーメーション銘柄(DX銘柄)2022」に選定

富士フイルムホールディングスは、経済産業省と東京証券取引所が、企業価値の向上につながるDXを推進するための仕組みを社内に構築し、優れたデジタル活用の実績が表れている企業を選定する「デジタルトランスフォーメーション銘柄(DX銘柄)2022」に選ばれました。



富士フイルムホールディングスは、最先端のデジタル技術を活用し、業務の手法やプロセス、製品やサービスを飛躍的に進化させるDXを企業活動全体で強力に推進しています。

今回の選定において、経営トップが牽引しグループ全体で取り組む推進体制や、医師の画像診断や医療現場のワークフローを支援するAIプラットフォーム等製品の医療機関への提供、AI技術を活用した健診センター開設による世界の医療課題解決に向けた貢献、明確な人材ポートフォリオに基づく人材強化の取り組みなどが高く評価されました。

富士フイルムホールディングスは、DXを通じた新しい価値の創造により、当社製品・サービスを通じてお客様含む全てのステークホルダーが得る価値を継続的に高め、持続可能な社会の実現に寄与していきます。

投資家インフォメーション

第126回定時株主総会の決議結果について

2022年6月29日開催の定時株主総会において報告及び決議された内容につきましては、当社ウェブサイト (<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/stock-and-shareholder/shareholders-meeting.html>) に掲載していますので、ご参照ください。



株主優待のご案内

株主の皆様のご支援に感謝するとともに、当社株式への投資魅力を高め、長期的に保有していただくことを目的とした株主優待制度を設けています。

- ・単元株（100株）以上保有の株主様
当社ヘルスケア製品 優待価格販売
- ・1年以上、単元株（100株）以上保有の株主様
保有年数、株数で優待内容が異なります。

※詳細は同封の「株主優待のご案内」をご覧ください。

継続保有について

- ・株主名簿上の登録日から割当基準日まで、同一株主番号にて連続して株主名簿に記載されていること
- ・貸株サービス、相続、贈与、株主名簿からの除籍などにより株主番号が変更になった場合、その直後の基準日から起算いたします。
- ・株主番号の変更の有無については、株式をお預けの証券会社にお問い合わせください。

IRカレンダー



統合報告書

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/integrated-report.html>



株主通信バックナンバー

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/fujifilm-news.html>



メール配信サービスのご案内

当社の最新情報を電子メールで配信するサービスです。ぜひご登録ください。ご登録はこちらから <https://www.magicalir.net/4901/mail/index.php>



単元未満株式買取・買増請求制度のご案内

買取請求

100株未満の株式を、当社に対して市場価格で売却できる制度です。

(例) 60株を保有の場合、市場では売却できませんが、市場価格で当社が買い取りいたします。

60株

当社に市場価格で
売却

60株

現金化

買増請求

100株（単元株式）に不足する数の株式を、当社から市場価格で買い増し、市場で売却できる単元株にすることができる制度です。

(例) 60株を保有の場合、40株を買い増して、100株とすることができます。

60株

+

40株を当社から
市場価格で
購入

40株

= 単元株式
(100株)

配当金の「口座振込」について

配当金のお受け取りには、安全・確実・便利な「口座振込」をおすすめします。口座振込のお受け取りは、つぎの3つからお選びいただけます。

①株式数比例配分方式

お取引の証券会社の証券口座で、お受け取りいただく方式
(証券会社に口座がない株主様は、ご利用いただけません。)

②登録配当金受領口座方式

ご所有の全銘柄を、1つの銀行等の預金口座で一括して、お受け取りいただく方式
(ゆうちょ銀行の口座は、ご指定いただけません。)

③個別銘柄指定方式

ご所有の銘柄ごとに、銀行等の預金口座を指定し、お受け取りいただく方式。

配当金のお受け取り・各種株式に関する手続きのお申し出先

- ①証券会社口座にある株式 ⇒ お取引先の証券会社
- ②特別口座にある株式 ⇒ 三井住友信託銀行
(※下記までお問い合わせください。)

三井住友信託銀行 証券代行部

電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>



FUJIFILM

富士フイルムホールディングス株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂9丁目7番3号
<https://holdings.fujifilm.com>

